

令和7年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立栄小学校				
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題(成果○ 課題●)	今後の改善点	学校関係者評価
学力向上×ICT活用	①主体性を大切に授業改善に取り組む。 【指標】学調・みえスタディ・チェックの結果分析で課題を明らかにし、全学年で重点的に取り組む。【目標値】課題となった問題に対して、わかる授業を行ったり、既習学習を継続して行った。児童アンケート⑥⑦ともに、4月から11月にかけて肯定的な回答が増える。	○学調・みえスタの問題を解き、結果を分析して、今後の授業にいかす研修を実施。 ●児童アンケートの4月と11月の比較で、⑥国語の勉強好き：-8%、⑦算数の勉強好き：向方で、肯定的回答は増えなかった。	・学調・みえスタの問題を職員全体で分析把握していくことを続ける。 ・学習内容の定着、学力向上を目指し、見直しを持った授業計画及び教材研究を行う。 ・家庭学習の定着を目指し、年度初めに児童への指導を行うとともに、家庭への働きかけを行う。 ・今年度引き続き中学校区で連携し、ICTを活用した授業を積極的に進める。また、全学年がICTを活用した授業公開を行う。 ・「どくしょゆうびん」「図書館クイズ」「本の福袋」など図書委員会を中心に学校全体で参加し、取り組むことができる活動を継続的に進める。また、日々の読書活動を丁寧に取り組む。(読み聞かせなど)	・国語、算数とも学調を見ると、基本的な内容を理解していない子が多く見られる。アンケートでも「いいえ」が多い。基本的な内容の定着、授業力の向上に向け、全校で具体的な方策を進めて行っていただきたい。 ・わかる授業を成立させるには、具体的にどのような取り組みが大切なのか。 ・継続的な取り組みが結果につながる様、ご期待しています。
	②授業力を向上させる。また、効果的なICT活用を目指す。 【指標】授業公開を行い、意見交換をして、授業力を高め合う。他校(小・中)の公開授業や研修会などを通してICTの活用方法を学び合う。 【目標値】月に1度以上他学年の授業を参観する。また、学期に2回、ICT支援員と共に、端末活用の授業を行う。	○授業公開は2学年(1年、4年)実施。各学年が郡山小学校の先行授業実施。 ○中学校区及び他県のLDXに関連する公開授業、東京都の研修に参加し、校内で遠流報告などを実施した。それらを受けて、ICT活用方法について学び合えた。 ●他学年の授業参観については、意識して取り組めてはいたが、職員間で差があった。	・生徒間の差はあると思いますが、高学年になるに当たり、勉強意欲が出てくるのはICT活用の授業のプラス面ではないかとみせて頂いています。どの様に職員間で差があったのか、少し気になるところです。読書は借りだけでなく、生徒の勉強面、生活面に活かされているかが大切だと思います。 ・児童アンケートは回答する時期においても変わると思いますが、気にならず、勉強、授業が嫌だをなくすよう取り組みを続けていきますよう。	
	③読書活動の推進【指標】図書館利用の活性化につとめる。 【目標値】年間貸出冊数5000冊。	○読書郵便、リーディングパティなど学校全体で積極的に取り組んだ。貸出冊数4800冊(12月現)		
長期欠席対策	①魅力ある学校づくりに努める。「先生から大切にされている」という安心感、「授業が分かりやすい、参加できる」という実感、仲間との絆、気持ちの分かち合いという一体感、個々のあり方・個性が尊重される安心感を保証する。 【指標】こども理解力を高める職員研修会 【目標値】年1回以上の研修会	○学校全体で取り組むポジティブ行動支援についての研修会をもった。 ●研修で学んだことを実践につなげきれなかった。	・学校全体で取り組むポジティブ行動支援を実践につなげていけるよう、年度初めに提案を行う。1限の授業の間に何度かこどもをほめたかをカウントするなどして、ほめる回数、ほめる内容、ほめ方などをふり返り、教員一人ひとりがこどもへの対応を改善していく。 ・欠席の増え方にもっと敏感になる。理由のはっきりしない欠席については、必ず家庭訪問か電話連絡をする。 ・欠席だけでなく、遅刻・早退にも注意する。「行き渋り」は不登校であると認識して対応する。 ・日頃から家庭と連絡を取り合っておく。学校でのこども様子と合わせて、保護者との面談等の記録をとり、「こども支援シート」作成にいかす。 ・学校だけの対応では、難しい場合が多い。適切に関係機関と連携をとり、保護者・こどもとつなげる。	・子どもにとって魅力ある学校とはどのような学校なのか。そのための方策を全教員で共有し、取り組んでいくことは大切だと思う。また、日々の子供との関係づくりも大切だと思うので、今後も進めていきたい。 ・個々に対応することが必要だと思います。それぞれ、性格も家庭環境も違うので、慎重に取り組んで下さい。 ・長期欠席については、子供によって理由も異なり、取り巻く環境もそれぞれ。先生方の対応も難しいと思います。欠席してみえる生徒、家族への連絡だけは密のして頂き、変化を見逃さない様お願いいたします。 ・早期対応に尽きると思われますので、情報共有をしっかりと続けてほしい。
	②早期支援に努める。 【指標】アセスメント(情報収集+理解+評価+仮説) 【目標値】連続欠席3日までの家庭訪問、連続欠席4日以上で「こども支援シート」記入開始、累積欠席日数15日ごろにケース会議、ケース会議開催後1週間以内に保護者を交えた支援会議、または週1回以上の家庭訪問の継続	○適宜「こども支援シート」を作成し、ケース会議、支援会議につなげた。 ●欠席日数が増えてからの対応になってしまった。		
	③気になる児童・学級を把握し、対応を協議する。 【指標】管理職と特別支援教育コーディネーター、関係する職員で話し合う。 【目標値】適宜、週1回(水曜日3限目)	○日常的に管理職と特支Coで児童・学級の実態を把握し、早期に対応を行った。		
非認知能力育成	①「非認知能力」について学ぶ。また、日々の子どもたちとの関わりおよび職員同士(中学校区を含む)の情報交換を大切にす。 【指標】研修会を行う。授業や取組の中で、子どもたちと価値を共有し、意識付けの声掛けを行う。学校アンケートより子どもたちの様子を把握する。また、年に1回程度、中学校区内での意見交換を行う。 【目標値】研修会を年間1回以上実施する。学校アンケートより子どもたちの実態を把握し、自己肯定感が高くなる回答が増える。	○研修会という形はとれていないが、日々の情報交換やアンケート結果をもとにして意見交換することができた。 ○中学校区においては、研修長を中心に年4回情報交換を実施し、報告及び意見交換を行った。 ●学校アンケートより、自己肯定感はほぼ変化はないが、若干下がっている。(R5 79% → R6 83% → R7 81%)	・「非認知能力」の学習会を実施し、職員間の共通した認識を確認し、日々の学校生活に生かす。 ・「非認知能力」の教育実践を通信などを通して家庭や地域に発信する。 ・図書室に「非認知能力」を育てる図書のコーナーを固定化設置する。また、教職員が、読み聞かせの際、「非認知能力」を育てる図書を進んで、選択する。	・身につけさせたい大切な能力である。教師の声掛けや指導が重要であると思う。充実して頂きたい。 ・マラソン大会等、自分との戦いのような科目が減り、地道にコツコツ感のような結果がすぐに出ないものへの敬遠もあるのでは。ゲームのような数秒で結果が出るものではなく、将棋や百人一首等、とすれば飽きするような遊びも必要ではないか。 ・非認知機能の育成は、子供たちが成長していく中、とても大切なことで、学校の方でも学ぶ機会を今後も継続していただきたいです。現家庭で、非認知機能を考えることは難しいと思われるからです。 ・中学校区における意見交換はよい取り組みですので、毎回違う方が参加するなど工夫して下さい。
	②非認知能力を育てる図書を推奨する。 【指標】日頃の読書活動と連携させ、教師の読み聞かせの時間を活用する。 【目標値】年3回教師の読み聞かせや本の紹介を実施する。	○年3回の教師の読み聞かせ達成。日頃より学習課題が終わった後などに、読書する時間を設けるなど、本に触れる機会があった。 ○図書室に非認知能力育成のための推薦図書をコーナーとして設置。		
地域連携	①鈴鹿型コミュニティスクールの推進 【指標】学校支援ボランティアの活用 【目標値】宿題チェックは毎日、読書は定期的、その他は各学期1回以上	○目標を達成できた。 ○家庭科や図工に加えて、算数科の学習ボランティアを積極的に活用することができた。	・学習計画の見直しをもち、主要教科も含めて学習ボランティアの活用を教職員に啓発する。 ・ホームページや学校だより等を通じて、ボランティア活動の紹介を積極的に進める。	・外部、地域人材の力も借り、きめ細やかな指導を今後も続けていただきたい。 ・地域ボランティアさんが積極的に関わってくださることに大変感謝しています。 ・継続をお願いします。 ・主要教科の学習ボランティアも活用されてみえるとの事。人選について、教職に携わってみたい方、勉強面だけでなく、現状をよく把握された方が入って頂く方が子供達の為には良いと思われまます。 ・人口減少の社会でボランティアが多数協力してもらえる学校は素晴らしいと思います。
	②地域のひととの児童の様子の共有・連携 【指標】学校行事や授業の地域の人の公開、教育活動の情報発信 【目標値】年間3回の行事や授業の公開・月2回以上のホームページによる情報発信	○行事(運動会・児童集会・6年生を送る会)と授業参観の目標を達成できた。 ○ホームページは学校だよりを中心に月に2回以上更新できた。		
学校における働き方改革	①時間外労働時間の削減・業務改善 【指標】ICT機器を有効に活用し、効率的に校務を進め、ワーク・ライフ・バランスの見直しを図る。 【目標値】時間外労働時間 年間360時間超の職員0人、月1人あたり45時間超の職員0人	○時間外労働時間 月1人あたり45時間超え職員0人(11月末) 目標達成できた。 ●時間外労働時間 年間360時間超の職員0人(11月末) 目標未達成。	・業務支援員の活用が進むよう、効果的な教職員への声かけや、見直しをもったスケジュール共有を行う。 ・複数の教職員で対応することで一人に偏ることなく業務の平準化を図るとともに、ICT端末の活用により、校務の効率化を推進する。 ・時間外労働時間の状況を数値やグラフ等で見える化することで、時間外労働時間削減や定時退校に取り組む。	・心身ともゆとりある職場が、子供への充実した指導につながると思うので、今後も進めていってほしい。 ・教職員の方には、大いに心のゆとりを持って頂きたいので、大変良いことだと思う。十人十色の教育(生活指導)で先生方も心の疲れと戦って頂いていると思う。 ・職員教育委員会で決めて下さい。 ・学校内だけでなく、教育委員会の方も、先生方のワークライフバランスを考え、負担の軽減を図られる事も大切かと。先生方の負担が大きい様なら子供たちの教育のプラスにもならず、学校内に働き方改革を求める前に、教育委員会の方が考えられる事が大切だと思います。 ・時間割を見直したことが良かったのでしょうか。引き続き時間外労働の削減を。
	②年休等取得の推進 【指標】年休・特休取得日数【目標値】年間22日以上	○休暇取得(11月末)合計16日(昨年度16日)で指標を達成する見込み。		
	③定時退校日の設定と実行 【指標】定時退校状況【目標値】月2回の設定日の退校率90%以上	○月2回の定時退校率(11月末) 100% 達成できた。		
人権教育	①自他を大切にす態度、差別や偏見をなくしていくこととする実践力の育成 【指標】学級の人権課題解消を意図した仲間づくり(レポート研修年2回)外国人・子どもの人権に係わる問題を解決するための学習(全学年) 【目標値】「学校に行くのは楽しい」「自分には良いところがある」と回答する児童が増える。	○計画的に取り組むことができた。 ○昨年度よりも「学校に行くのは楽しい」に肯定的回答をしている児童が増えた。(R6 83% → R7 85%) ●「自分には良いところがある」に否定的回答をしている児童が増えた。(R6 83% → R7 81%)	・児童に他者から認められる経験をさせる。 ・児童の実態に応じた個別的な人権問題に取り組む。 ・教職員として、授業や普段の生活の中で人権の視点を持つ。 ・児童一人ひとりの考えを学級や学校で交流し、取組を保護者や地域へ発信していく。	・学校が楽しいと思えるのは、どのような状況なのか。また、自分の良いところは、自分ではなかなかわからない。友達の良いところ探しを行うなど、具体的な取り組みをさらに進めて頂きたい。 ・継続をお願いします。 ・自分、お友達、先生、お互いに長所、短所を言い合ったり、それぞれが見つけ直す事も出来、プラスになるのでは。
	②平和教育 【指標】平和について考える取組(全学年、年1回以上) 【目標値】取組後の考えを書き残し、掲示する。	○全学年で実態に応じた取組ができた。 ●掲示ができなかったため、掲示の仕方を職員で共有していく。		
生活指導	①いじめの防止・早期発見・解決に向けた組織的な取組 【指標】いじめについてのアンケート実施後のていねいな対応、学校全体での情報共有、保護者への啓発、いじめは絶対に許されないという学校づくり 【目標値】いじめについてのアンケートを学期に1回実施する。情報共有の機会を職員会議に位置付ける。ホームページに三重県いじめ防止条例・栄小学校いじめ防止基本方針を載せる。児童会でいじめ防止強化月間(ピンクシャツ運動等)に取り組む。発達段階に応じて、いじめ防止の授業を行う。	○目標を達成できた(11月末)。児童会主催のピンクリボン運動をはじめ、学級でもいじめに対する標語や川柳を製作し、いじめは許されるものではないということに取り組んできた。 ●児童アンケート「いじめは許されたいにたくないことだと思いますか」という問題において否定的にとらえている割合が2%いる。だれもがいじめはあってはならないことであることを授業を通じて指導していく。	・いじめを許さない、させない、安心でできる仲間」の育成に努められるよう、いじめ防止教育を一学期中には、必ず行うようにする。また、4月のいじめ防止月間の取り組みを学校全体として充実させていく。 ・「言葉」に関しては、年々ネットの影響が適切な言葉が使えていない姿が見られるので、「言葉に責任がもてる」こどもを育てていく。 ・自分から挨拶をする子が増えるよう、児童会を中心に挨拶運動を活発化させていく。	・いじめを他人事にさせない。具体的な取り組みを行ってほしい。 ・いじめアンケートで、否定的解答が出てきたことは、ある種、都会的(これも偏見かもしれない)になってきた気がする。小規模校になってきたので、もっと横にも縦にも繋がって言いたい堂々と感情的にならずに話し合える雰囲気ほしい。 ・小さな芽を逃さない様、その都度解決してください。 ・自分の行動、言葉がいじめになることが、分かっている子どもも多いと思われる。受け止め方もよくなる。いじめの境目というのも先生方には難しいところだと思います。現在の子供たちには特に。主任児童委員として、毎週月曜日に朝登校時に挨拶運動に伺っていますが、「おはようございます。」と声に出してくれる生徒さん、同じ顔ぶれになってきている感じがします。 ・挨拶の児童アンケートで、肯定的回答の増は素晴らしい。
	②基本的生活習慣の定着 【指標】あいさつ運動、食育、健康教育、ノーマディア運動の推進 【目標値】あいさつ運動を月に1度実施する、各学年栄養教諭と担任による食育授業を計画・実施する。ノーマディア運動・家庭学習推進週間を中学校と合同で実施する(年5回)。	○基本的生活習慣の定着のため、指標が上がっている取り組みについては行うことができた。 ●挨拶に関しては、児童アンケートでは、肯定的回答が増えているが、保護者のアンケートでは、否定的回答が増えているため、挨拶の指導を継続して行ってほしい。		
特別支援教育	①児童の実態把握と個別の支援計画・指導計画の作成 【指標】定期的な保護者と協議し、個別の支援計画・指導計画の立案と見直しを行う。 【目標値】支援計画は年に1回以上見直し、指導計画は学期1回作成する。	○懇談会や支援会議の中で、学期に1回保護者と協議し、支援計画の見直しを行った。指導計画も学期に1回作成した。	・児童の実態把握や情報共有を日々行い、今後も教職員全員で児童を見守っていく。 ・特別支援学級担任による特別支援学級在籍児童の理解についての児童向けの授業に関して、必要に応じて全学年へ積極的に進めていく。	・学校全体で配慮の必要な子の情報共有・理解が適切な指導を行う上で大切である。引き続き取り組みを行っていただきたい。 ・大人の認識だけの世界観で理解するのではなく、子どもの輪の中で、どう位置づけるか。全学年(全校)として受け入れてほしい。 ・障害等、幼児の時に表面化する子供、成長するにつれて、生活面、言葉遣い、行動について、違和感を感じるようになってきたり、家庭内で気づけない事もあると思います。教職全体で、児童の把握、見守り等共有されていくとの事。とても大切だと思います。
	②教職員間での情報共有 【指標】情報共有を図ることで教職員全員で児童を見守る。 【目標値】特別支援教育において児童の様子について職員会議等で情報共有を行う。	○目標を達成できた。 ○日々児童の様子を教職員間で共有している。		
	③児童理解のための機会を設ける 【指標】児童理解のために職員への研修を行う。特別支援学級在籍児童の理解について児童向けに特別支援学級担任より授業を行う。 【目標値】特別支援教育の研修会を1回以上行う。特別支援学級在籍児童の理解について児童向けの授業を全学年に1回以上行う。	○職員向けの特別支援教育の研修を計画通り行った。 ●特別支援学級担任による特別支援学級在籍児童の理解についての児童向けの授業を1年生にのみ行った。		